

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立西部特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	138人(令和6年5月1日)

1. 使用状況

寄贈物品名	TDパイロット（視線入力装置）
使用学年及び人数	高等部(訪問教育)1年 1人 、 高等部3年 1人
使用頻度	週2回、9月以降週3回
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から使用していた生徒と今年度9月から新たに使用を始めた生徒で使用している。継続使用の生徒が使用しない時間に、別の生徒が使用している。 ・継続使用している訪問教育では、授業ごとに施設に持ち運び、別に購入した専用のアームを活用して使用している。 ・校内では、生活単元学習の授業時に教室に運んで使用している。
物品の使用による変化や効果 ※ 1年目との違いを含めご記入ください。	<p><継続使用の生徒></p> <p>1 コミュニケーション支援 -「ドロップタップ」アプリを活用-</p> <p>【会の進行役】始めの会を進行する役割に取り組むことができた。</p> <p>【返答する】課題に関する質問の答えを選んで伝えることができた。</p> <p>2 制作活動 -「フリーボード」アプリを活用-</p> <p>【配置する】好みの場所を視線で伝え、イラストなどのアイテムを配置して制作活動を行い、作品を作ることができた。</p> <p><本年度使用の生徒></p> <p>1 コミュニケーション支援 -「ドロップタップ」「パワーポイント」を活用-</p> <p>【選択する】好きな色や素材、絵本などの選択に使用し、自分で見て選択をすることができた。意思がより分かりやすくなったように思う。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>持ち運びが容易なため校内での使用だけではなく、訪問教育での使用が可能であった。生徒の意思を教師が状況から判断するのではなく、生徒の思いに沿って学習を行うことができ、コミュニケーションツールとして有効であった。また、見る、聞く、理解を促すなどの支援装置としても大変有効であった。</p> <p>1年目の報告では、視線入力が有効な支援になる児童生徒への活用の促進を課題としたが、コミュニケーションツールとして活用するにはいつもそばにあって、伝えたいときにすぐに使うことができる使用環境が大切であることが分かってきた。しかし、実際は常に設置しておくことは難しい。</p> <p>今後は、2年間使用してきたように個々の学習場面での課題達成や教師とのやりとりの中での使用を中心に活用していく。</p>
その他 希望や所感など	<p>iPadなどタブレット端末に外付けできるなど、もっと安価で、更に手軽に使用できる装置があれば試していきたい。</p> <p>視線入力を活用して、課題を達成するために有効なアプリを増やし、活動の幅を広げていきたい。</p>

2. 活用の様子

【会の進行】

「カレンダー」「てんき」「よてい」のドロップを順番に視線で読み上げて、進行役を担っている。



【返答する】

絵本に登場する「秋さがし」をした。
「おちば」「どんぐり」「むし」などのドロップから、
絵本に登場した「秋」を選んで、質問に答えた。



【制作する】

「森のケーキ」
「どんぐり」「木の実」「落ち葉」などの
イラストを配置したい位置を視線で
伝えて作品を作った。

